

苦小牧市議会議員
小山 征三

通信

『春』号
2012. 4. 5

小山せいそう後援会

苫小牧市ときわ町 1 丁目 19-23

TFI 0144 (67) 8255

平成24年2月24日～3月16日

3月議会（第5回定例会）終わる！

今議会は新年度の行政執行に当り、市長の「市政方針」と教育長による「教育行政執行方針」が示されました。これを受け、各会派の代表質問が行なわれました。提出案件としては報告3件、陳情4件、議案50件、諮問1件の合計58件です。

消防の中核機能
東部へ移転か？

今回示された補正予算（案）には、消防救急無線のデジタル化の予算として4億円が計上されたことから、現在の消防署通信指令室（末広町）で、デジタル化の整備が出来るかについて質問をしました。アナログの指令台そのものの更新計画が盛り込まれていないため、無駄な予算にならないかという観点からです。市長は、以前から「この街には、無駄な予算をかけた公共施設がたくさんある」と言っています。

市側は、現庁舎の更新は難しいと整合性の取れない答弁です。建物の老朽化と更新するためのスペースがないことが判明しました。それでも市側は、暫定的にでも整備する方針です。また、消防内部の検討委員会が、デジタル化の完全移行のために「消防庁舎の明野地区へ移転」を示していることについても指しかりと考えていく時期。機は熟しつつあるに伴い市内の出張所が統廃合など合理化され

《一般会計予算審査特別委員会》

平成24年3月6日から3月13日まで集中審議

一般会計予算審査特別委員会の委員として予算（案）の総務費、民生費、環境衛生費、消防費など全般にわたり質問し、総括質疑でも再度理事者の見解をたどしました。

※※※※※ 個人情報保護条例見直しへ ※※※※※

総務費では、総括質疑を含めて苫小牧市個人情報保護条例の問題点を取り上げました。新年度予算で購入が予定されている防災ラジオの配布先に要援護者情報が必要であることや、社会問題化している高齢者などの孤独死問題においても民生委員さんや児童委員さんと情報を共有する必要がありながら市役所の部局間では、個人情報保護だけに過剰反応し、情報の共有はできないとして業務が停滞しています。私は、個人情報保護条例の改正を求め、市側は早い時期に改正する考えを示しました。

消防本部の移転検討

中枢機能など体制見直しへ

苫小牧市議会は24日午後本会議を開き、景気雇用対策などを盛り込んだ2011年度各会計補正予算案を全会一致で可決した。この中で理事者側は、消防本部や消防署の指針など中核機能の移転集約を示唆した。現状では消防の部内検討段階で、12年度に策定する実施計画に盛り込むかどうかが焦点となる。

無線デジタル化に合わせ

山の山小屋、民主・市は、
 風の陣に誘た。市は、
 国の3次正を聞いて、市
 予算案に防衛新組織とし
 た。整備整備3億8千万
 円を確保した。今回防
 域の活動は、防衛、市
 村が専用日常業務に専
 注して、若くは消防、未
 15日の報告を、防衛、市
 は、アログのまで、こ
 れを、シタタタタタタ
 16年5月27日、
 小山は、通、シタタタ
 防衛では、全移、市、
 デジタル化、市、
 では、と、松竹志、
 改、現、新、
 符、デジタルに、
 通、中、
 小山氏に、消、
 の中、防、
 13年、月、
 14年、
 市、
 15に、

また、消防本部が市役所本
 町にあり、中板橋消防署
 庁舎と分れてゐる。岩倉
 町市長は、いろいろなと
 ころを合点的に、まちの安
 全の土台である消防本部
 その機能をうすきかへし
 たいと考えてゐると述べ
 てつづつた。そして、集
 約の可能性について、消防
 庁市統合面実施計画（面
 作）を念頭に検討する意
 向を示した。

報民牧小苦

2月25日
土曜日

土曜日

苦小牧市議会

市の施設 老朽化消火器多数

30年経過23本、理事者改善へ

苫小牧市議会一般会計

苫小牧市の本庁舎や学校、小中学校で、製造後10年以上経過している消火器が多数あることが、13日の市議会一般会計予算審査特別委員会（後藤節男委員長）で取り上げられた。中には製造後30年以上経過が懸念される消火器もあり、理事者側は改善する考えを示した。併せて市営住宅や学校の警報機など消防設備の不具合も報告された。

小山征三氏（民主・市民の風）が質問した。

12年度予算案可決

個人情報保護条例、見直しへ

一般会計予算特別委員会は13日、総額746億円の2012年度一般会計予算案を賛成多数で原案通り可決した。総面でも柔軟な運用が求められる。個人情報保護条例の見直しを求めた。理事者側は「早い時期に条例改正の提案をしたい」と、民主系も特別公務員としての表記することを検討した。

苫小牧民報

3月14日 水曜

と答え、12年度中に改正する考えを示した。

次に、法令遵守の観点から「老朽消火器」が多数あることを指摘しました。本来市役所は、行政執行機関として法令違反などあってはなりません。特に避難所となり得る小中学校の消防設備の不備は現場軽視であることを指摘し、改善を求めました。市側は、予算の執行残などを集めて改善する旨の答弁をしました。

民生費では、敬老会の助成金について理事者の姿勢をただしました。新年度から敬老会の助成金を3千円から2千円削減し、1千円にしていることですが、確かに75歳の高齢者が年々増えていますが、過去に市が主催していた敬老会を町内会に移管した経過や高齢者福祉の観点から言うと切り捨てと言わざるを得ません。まだまだ議論不足だと思いますが、残念なことに多くの議員が削減に対して賛成です。賛成した議員は、地元町内会で説明責任を果たすべきです。

高丘霊葬場の雨漏り 平成16年から放置！

環境衛生費では「家庭ごみの有料化」と「高丘霊葬場の改修工事」について、質問しました。まず、ごみの減量化につながるとしている「家庭ごみの有料化」ですが私の質問で、来年度から「事業系のごみの値上げ」も行うことが明らかになりました。問題点は、有料化による3億円の収入の使途にもあります。排出された家庭ごみの収集・処理は、今まで通り「税金」で行うのであれば何のための料金制なのか理解できません。

次に、高丘霊葬場の雨漏りについて質問しました。この施設は、平成9年に新築しましたが、平成16年に雨漏りを発見しながら今日まで放置していることについて市側の姿勢をただしました。特に冬場は、融雪水の影響で待合室、告別室で雨漏りが発生していることです。市長は、議会終了後に自ら出向き、現場を確認することを約束しました。

救急車老朽化も、あいまいな更新計画



消防費では、救急車の更新計画について質問しました。市内には、予備車を含め6台ある救急車のうち4台が更新対象で、既に走行距離が15万キロを超え、エンジントラブルなど多く発生しています。新年度の更新計画は1台だけで、救急救命としての役割を十分果たせるとは思えません。また、他市でエンジントラブルなどにより救急搬送中に遅れが生じ、謝罪した例を取り上げ更新を訴えましたが、市側は日常の整備に万全を期したいとの答弁にとどまりました。

「家庭ごみの有料化」・・・市民への説明責任果たしていない！

「敬老会の助成金削減」・・・町内会への説明不足！

一般会計及び企業会計それぞれの予算審査特別委員会は、当初案の通り可決しました。ただ「家庭ごみの有料化」については、市民への説明責任を十分に果たしていないこと、「敬老会の助成金削減」問題については、市民の間に賛否もあることから町内会並びに対象者に丁寧な説明と理解を求めることを付帯決議として提出しました。

《熱血現場主義》 小さなことでも身近な問題を地域から発信します！

